

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桜町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

木曾駒ヶ岳－千畳敷平の賑わい－



千畳敷平

10月初旬、木曾駒ヶ岳(2956m)に出かけた。中央アルプスの最高峰である。その中腹の千畳敷平まではロープウエーで簡単に登れるとあって、紅葉シーズンにはとりわけ人気の山である。

朝方、飯田線駒ヶ根駅からのバスでロープウエー下駅・しらび平に向かう。途中の菅ノ台バスセンター辺りでは、バスを待つ行列が200人以上もあり臨時バスも出ずのに大童とのこと。

9時ロープウエー下駅に到着したら、ロープウエー乗車が何と40分待ち。ようやく乗ったロープウエーは、僅か9分間でロープウエー上駅・千畳敷平(2612m)に運んでくれた。

千畳敷ホテルのテラスにタダで厚かましく座り込んで身支度をすする。目の前に広がる千畳敷平は、残念ながらもう枯野原の装い。今年は異常気象で、早くに紅葉の盛りは終わったとのこと。それでも周遊コースを連なって散策する沢山の人の群れが跡を絶たない。

10時半出発で、今夜の宿・宝剣山荘に向かう。千畳敷平の真ん中、石ゴロゴロの八丁坂の直登。前も後も人の群れ。蛇籠を積んだジグザグの急坂をぐんぐん高度を上げて行く。疲れる。

11時45分宝剣山荘到着。寝床を確保し一休みの後、13時出発、軽装で駒ヶ岳に向かう。ハイマツとガレキの広い斜面を辿り、中岳(2925m)頂上到着が13時半。更に広い斜面のガラ場を下り、広いゴロ石斜面を踏み跡に従い登り、14時駒ヶ岳山頂。

山頂には、木曾側に石造りの祠、伊那

側に檜造りの祠、中央に360度展望の立派な標定盤がある

が、どんより曇り、眺望ゼロ。寒い。早々に宿に帰り、ストーブを囲んでの宴会の仲間に加わった。

夜半から雨風の音。朝になっても霧雨模様。予定していた空木岳への縦走

を取りやめ、しばらくウジウジしていたが、とあれ宝剣岳(2931m)と三ノ沢岳(2846m)の頂上を踏んで下山することに意を決し、7時15分、雨支度で山荘を出発した。

山荘を出てすぐ岩場が始まる。要所にクサリやアンクルが打ってあるが、雨に濡れた岩場を慎重に足場を確保しながら登る。宝剣岳頂上7時45分。

下りも、自問自答しつつ慎重に慎重に。

三ノ沢岳分岐8時20分。次いで三ノ沢岳へはハイマツ帯の散歩。これが意外に長く、往復タツプリ3時間半。元の分岐に戻り、極楽平経由でロープウエー上駅帰着が13時半となった。



駒ヶ岳山頂



中岳から臨む宝剣岳



夏の駒ヶ岳・中岳・宝剣岳(三ノ沢岳から)